II—20　ソイルセメントの強さの試験方法

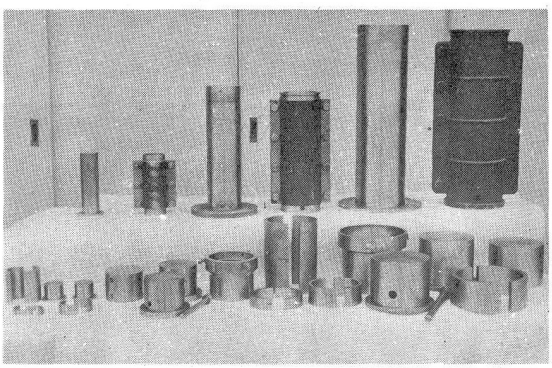
東京大学生産技術研究所　正員　三木五三郎

土の性質が比較的貧弱なのを改善して路盤材量に使用できるようにし，また一般に路盤の耐久性を増大させる等の目的で用いられる表層安定処理工法は，施工機械として各種のソイルスタビライザーを利用できるようになってわが国でも急激にその活用が考えられてきたが，処理された材料の強さを判定する試験方法についてはまだ解決の余地が多い。

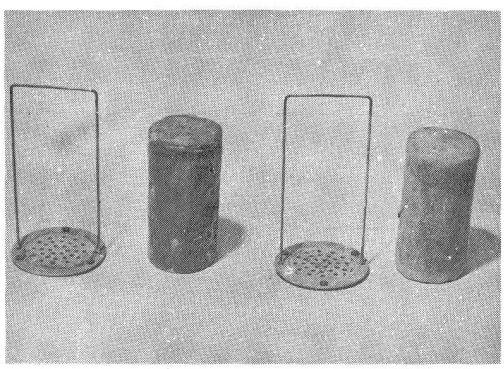
もちろん一般に安定処理土の強さとしては，設計施工の基本的資料をもとめる実験室における試験と，現場における施工管理試験とに大別できるが，本論では最も新しいイギリスの標準方法[1]を中心としてソイルセメントの室内試験の問題点を検討してみた。

このイギリスの方法では材料の最大粒径に応じて3種類の大きさの円柱形供試体を成形し，その一軸圧縮強さを求めることをたてまえとしているが，図—1に示すのはその成形用モールドおよび付属品である。締固めは静的に行うことを推奨しているが，動的にも行えるようになっている。普通にはパラフィン塗布，恒温（25°±2°C），7日養生供試体（図—2参照）について試験するが，水漫（図—3参照）の影響や凍結融解（図—4参照）の影響も，最後に同齢の普通養生の供試体との強さの比較によって求めている。

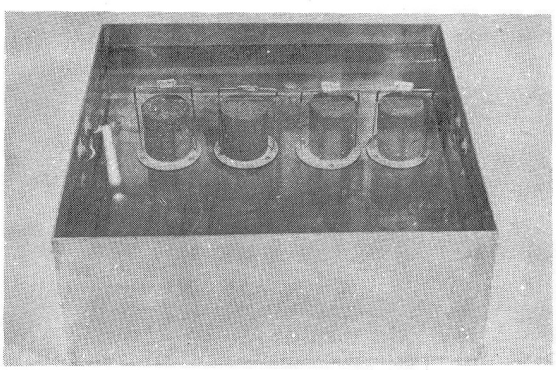
文献（1）British Standard, Methods of Test for Stabilized Soils, B.S 1924：1957



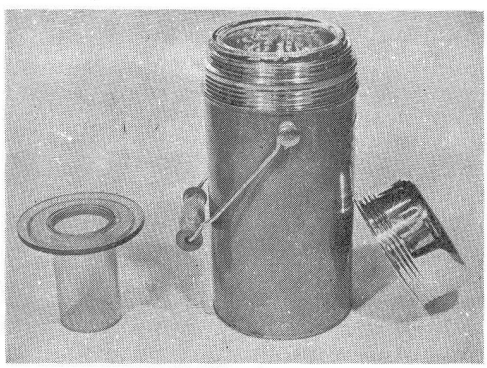
図—1



図—2



図—3



図—4